総合的な教師力向上のための調査研究事業

－メンター制等による研修実施の調査研究－

成　果　報　告　書

平成２９年３月

群馬県総合教育センター　義務教育研究係

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

Ⅰ　事業概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２

１　文部科学省委託事業について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２　本県の取組の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

Ⅱ　実践内容及び成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

１　調査研究の検証方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

２　メンター研修の内容や方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

３　事例研修の内容や方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

４　点検指導の内容や方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

５　初任者及び他の教員に与える研修の効果 ・・・・・・・・・・・・・・・27

６　学校風土に与える影響 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

７　負担感の軽減 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

８　成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

は　じ　め　に

群馬県総合教育センター所長
岡島　美智子

近年、社会の急激な変化や価値観の多様化に伴い、学校が抱える課題がより複雑・困難になっています。また、教員の大量退職・大量採用が進行している中で、初任者であっても教員として高い実践的指導力が求められ、学校現場におけるＯＪＴを生かした計画的な人材育成が急務となっています。しかし、ベテラン教員が培ってきた教育実践がスムーズに継承されず、組織運営の中核を担う教員が若年齢化し、運営に支障をきたしたり、若年教員の資質能力の向上を充分に図ることができなかったりする状況が見られます。

そうした中、本県の初任者研修に関わって、特に自校方式による小・中学校初任者研修実施校の抱える課題があります。具体的には、①自校方式による実施校の増加と学校の統廃合等による学校数の減少により、実施ノウハウのない学校や小規模校に初任者が配置されていること、②学校全体で指導する体制が整備されておらず、他の分掌を抱えながら初任者の指導に当たる指導教員に負担が集中する傾向にあること、③指導技術や教職に関わる知識だけでなく、メンタルケア等初任者に対して広範囲にわたる指導・援助が求められていることなどがあげられます。そうした課題の解決として、効果的・効率的な研修システムの構築に向けた取組が必要とされてきました。

このような状況の中、平成２７年度に、県独自で「自校方式２人配置校における研修の充実と効率化に向けた取組」として、初任者研修の実施体制、年間の研修指導の在り方、実践的で効果的な研修の在り方等についての調査研究を進めました。その結果、初任者の悩みや課題意識を踏まえ、校内における研修のよさを生かした研修内容や研修形態へと改善する必要があることが分かりました。具体的には、教科指導や生徒指導等を視点とした協議など、日常の教育活動と関連させた実践的な研修や異なるキャリアステージの複数の教職員が役割を分担して若手育成をねらう参加型の研修、若手教員との協働意識を育みつつメンタルケアにつながる研修等の必要性が見えてきたところです。さらには、全校体制による研修の推進に効果的な指導教員等の配置や研修全体をコーディネートする指導教員の役割について周知するとともに、より効果的・効率的な手法について情報収集し資料化する等、改善に向けた働きかけを行う必要が見えてきました。

そこで本年度は、文部科学省の「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の中の「メンター制等による研修実施の調査研究」において、伊勢崎市、藤岡市、桐生市、板倉町の自校方式の８校を対象として調査研究を進めることとしました。研修システムは、初任者研修の一環としてメンター制を導入することや日常の教育活動と関連させるなど、実践的なものとしました。更にこのシステムが、初任者への過度な負担や研修の重複感の解消・軽減、組織的・継続的に初任者を育成するための学校体制の構築、指導教員の多忙感・負担感の解消・軽減に資するものであるかを調査研究しました。

この報告書は、調査研究協力校の研究内容の取組をまとめたもので、今後の若手教員の指導力向上のための環境づくりに役立てられればと考えております。

終わりに、本調査研究にあたり、ご尽力いただきました伊勢崎市教育委員会、藤岡市教育委員会、桐生市教育委員会、板倉町教育委員会をはじめとする関係機関の皆様に心から感謝申し上げます。

平成２９年３月

Ⅰ　事業概要

群馬県では、本調査研究事業の中で、初任者研修、とりわけ自校方式によって実施する学校が抱える課題を改善するとともに、学校現場で研修するよさを生かした、より実践的で効率的な研修の在り方について研究することとした。

課題

○　実践的な研修が必ずしも実施されているとは言えず、初任者の困り感を解消し必要な資質・能力を身に付けさせることにつながらないことがある。

○　指導教員と初任者の閉じた関係の中で研修が行われ、初任者が多様な考え方や実践に触れる機会が少ない。一方、他の教職員には若手教員を育成しようとする意識が生まれにくい。

○　指導教員を中心に一部の教職員に負担感が集中し、指導教員が疲弊している。とりわけ、自校方式でその傾向が強い。

求める研修の姿

○　教科指導及び生徒指導を重点とし、日常の教育活動と関連させた実践的な研修。

○　全校体制による効果的な研修。

○　自校方式の指導教員や初任者の負担軽減につながる効率的な研修。

具体的な取組

現行方式の一部に代え、以下の研修・指導を取り入れた調査研究方式による初任者研修を実施する。

○　初任者の課題や実践等に関わる内容についてチームで行う研修（メンター研修）

○　日常の教育活動と関連させた短時間での研修・指導（事例研修）

○　作成した資料や諸表簿の点検を中心にした指導（点検指導）

調査研究の目的

新たに取り入れた研修・指導について、以下の３点を明らかにする。

○　実践的な研修とするために、どのような内容や方法で行うことが適切か。

○　効果的な研修とするために、どのような体制下で行うと良いか。

○　効率的な研修とするために、新たに取り入れた研修は有効であったか。

1　文部科学省委託事業

(1)　事　業　名　文部科学省平成28年度委託事業「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

(2)　テ　ー　マ　「メンター制等による研修実施の調査研究」

(3)　概　　要　本テーマでは、初任者研修実施校２校に対し研修コーディネーター１名を措置し、組織的に指導する体制下で自発的、継続的な研修が実施されるようメンター方式の研修等を試行実施し、成果や課題等を明らかにする。

2　本県の取組の概要

(1)　本県のかかえる課題と改善の方向

①　初任者研修に関わる実態

○　小・中学校初任者の悩み（H26 初任者対象アンケート調査　※複数回答可）
小学校の初任者（１　学習指導 91%、　２　学級経営 70%、　３　生徒指導 54%）
中学校の初任者（１　学習指導 77%、　２　生徒指導 63%、　３　クラブ・部活指導 61%）

○　小・中学校初任者が悩みを相談する相手（H26 初任者対象アンケート調査　※複数回答可）
小学校の初任者（１　教務主任・学年主任 75%、２　５年以内の同世代 46%、３　ベテラン教員 45%）
中学校の初任者（１　ベテラン教員 69%、２　５年以内の同世代 53%、３　教務主任・学年主任 50%）

○　自校方式のうち、年間研修時数の７割以上を指導教員１名が担当する学校の割合は 92.3%。

○　自校方式では拠点校方式に比べ、指導教員が指導の準備やまとめに充てる時数が年間平均で 33.7 時間少ない。

②　初任者研修の課題

○　実践的な研修が必ずしも実施されているとは言えず、初任者の困り感を解決し必要な資質・能力を身に付けさせることにつながらないことがある。

○　指導教員と初任者の閉じた関係の中で研修が行われ、初任者が多様な考え方や実践に触れる機会が少ない。一方、他の教職員には若手教員を育成しようとする意識が生まれにくい。

○　指導教員を中心に一部の教職員に負担が集中し、指導教員が疲弊している。とりわけ、自校方式でその傾向が強い。

○　初任者自身が研修に費やす時間が多く、児童生徒と向き合う時間が少ない、教材研究の時間が間に合わない等、初任者も負担を感じている。

③　調査研究を通して求める研修の姿

○　教科指導及び生徒指導を重点とし、日常の教育活動と関連させた実践的な研修。

○　学校全体で指導する体制による効果的な研修。

○　自校方式の指導教員や初任者の負担軽減につながる効率的な研修。

(2)　調査研究の目的

本調査研究では、新たに取り入れた研修・指導について、以下の３点を明らかにする。

○　実践的な研修とするために、どのような内容や方法で行うことが適切か。

○　効果的な研修とするために、どのような体制下で行うと良いか。

○　効率的な研修とするために、新たに取り入れた研修は有効であったか。

(3)　調査研究組織と連携体制

①　調査研究校

○　中部教育事務所管内　伊勢崎市（広瀬小学校・坂東小学校）
○　西部教育事務所管内　藤岡市　（藤岡第二小学校・美土里小学校）
○　東部教育事務所管内　桐生市　（川内小学校・川内中学校）
　　板倉町　（東小学校・板倉中学校）

②　連携機関及び助言者について

連携機関　　群馬大学教育学部、高崎市教育委員会
助 言 者　　群馬大学教育学部副学部長　益田　裕充　教授

③　関係機関と調査研究組織

県教育委員会と当該市町教育委員会、調査研究校、群馬大学教育学部で研究協議会を組織し、調査研究を進める（図１）。

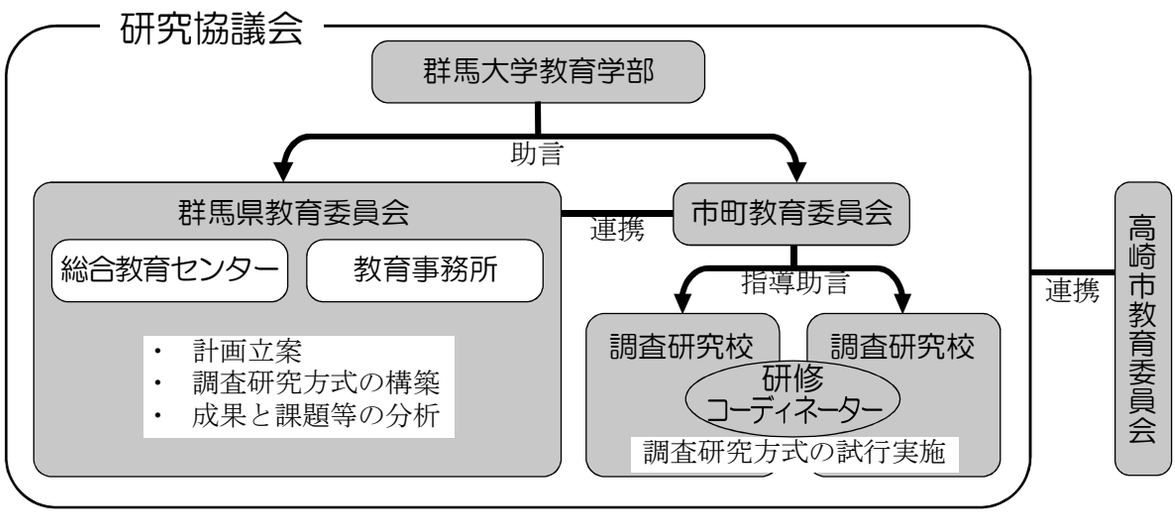

図１　関係機関と研究協議会等

(4)　学校現場で実施するよさを生かした研修・指導（調査研究方式）

①　調査研究方式による研修体制

調査研究方式では、学校全体で指導する体制づくりを重視し、学校現場で行うよさを生かした実践的な研修とするため、複数の立場の教職員が様々な場面を捉えて研修を進めることを想定した。そのため、校内における初任者研修全体をまとめ、調整していくことが研修の質に大きく関わるものとなる。そこで、研修コーディネーター及び校内指導教員を中心とする研修体制を構想した（図２右）。

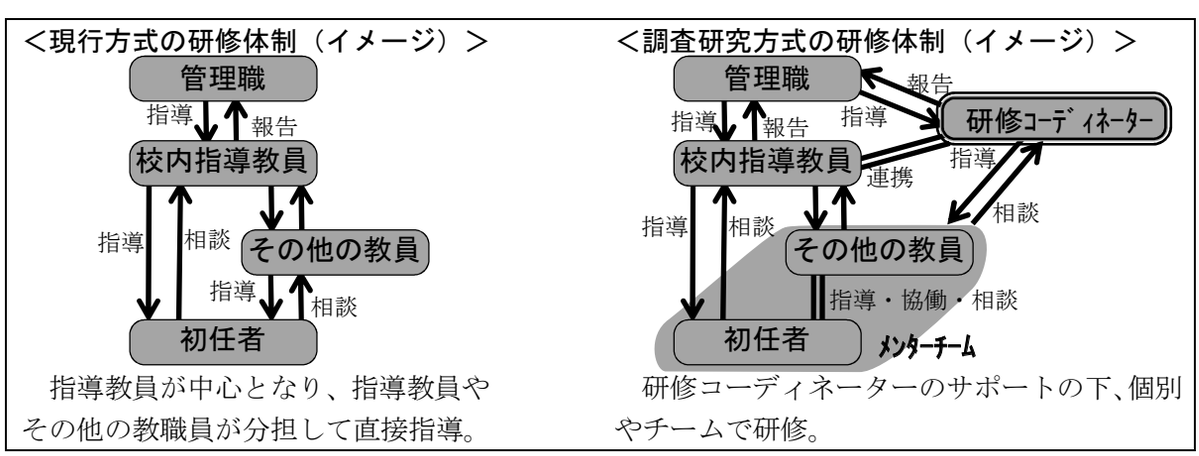

図２　現行方式と調査研究方式の研修体制のイメージ

② 調査研究方式の研修形態と研修・指導方法

具体的な取組として以下の三つの研修・指導方法を取り入れ、学校現場で実施するよさを生かした研修を実施することとした。

資料１　調査研究方式の研修形態と研修・指導方法

研修形態	研修・指導方法	研修・指導方法の概要
研修形態Ａ 初任者が指導を担当する教員に授業を参観してもらう時間 ※　年間60コマ程度	参観指導	初任者の授業を、指導を担当する教員が参観して指導する。
研修形態Ｂ 初任者が授業を持たず、他の教員に授業を示範してもらう時間 ※　年間30コマ以上	示範指導	先輩の教員が初任者に対して授業を提示する。
研修形態Ｃ 指導を担当する教職員と初任者双方が授業を持たずに研修・指導をする時間 ※　年間90コマ程度	口頭指導	指導を担当する教職員が、資料等を活用する等して、口頭による説明や指導・助言、簡単な話合い等によって指導を行う。 ※「日常の教育活動と関連させた短時間での研修・指導」「作成した資料や諸表簿の点検を中心にした指導」を含む。
	実習指導	業務に係る作業の時間を確保し、実習を通して業務に関わる知識や技能等を指導する。
	メンター研修 （新規）	メンターチームによる協議等を中心にした、参加型の研修を行う。

※　研修時数については現行方式（年間180 時間以上、週当たり６コマ程度）と同様とする。

ア）　初任者の課題や実践等に関わる内容についてチームで行う研修（以下、「メンター研修」という）

先輩教員（メンター）と初任者や若手教員等（メンティー）とで小集団（以下、「メンターチーム」という）を編制し、定期的・継続的に交流し、対話やメンターによる助言によってメンティーの自発的な成長を支援する研修。

＜メンターチームの編制について＞

調査研究校では、参加者を固定したメンターチームを編制する。また、目的やニーズに応じて、研修ごとにメンターチームを編制する。

＜参加者を固定したメンターチーム運営の役割分担について＞

調査研究校では、資料２を参考に、各校の実状に応じ、メンターチームの編制及びサポート体制を整えることとした。

資料２　メンターチーム、サポートチームの編制と役割例

	構成	参加者と役割例
メンターチーム	メンバー	主にメンバーの年齢や経験年数、参加者の人数等によってチームの性格を考え編制する。 ○　若手中心のチーム ○　若手・ミドル中心のチーム ○　若手からベテランまでを含んだチーム　等
	チームリーダー	メンター研修の運営の中心。毎回のテーマ設定や研修の司会、協議のファシリテーター等をしたりそれらの分担を考えたりする。 サポートチームとの連絡・調整の中心になる。
サポートチーム	管理職	全体の責任者。メンターチームのサポートについて指示や助言を行う。
	研修コーディネーター	チームリーダーと相談し合いメンター研修の計画を立案するとともに、管理職や他のサポーターと協力してメンター研修実施の調整をしたり、他の教職員にメンター研修について周知したりする。
	その他のサポーター	研修コーディネーターと協力してメンターチームに対して必要な援助する。

※　校内指導教員を、メンターチームとサポートチームのどちらに位置付けるかについては、研究校の実情に応じて工夫する。

＜メンター研修の内容について＞

資料３を参考に、メンバーによる主体的な研修となるよう、テーマの設定を工夫する。

資料３　メンター研修の内容（例）

研修例	内容例
○メンバーの悩みや課題を基にテーマを設定して行う研修	アンケートやメンバー同士の相談、サポーターによる観察等によりテーマを設定し、講師を招いたり協議したりする研修。 ※　15～30分程度の短時間の設定も可。
○実践や経験に関するテーマの研修	学校行事等、共通体験を生かした、よさや意義、改善案等についての協議。 (例)「集団行動を学ぶ意義」「合唱コンのよさ」「運動会を児童主体に改善するために」等 ※　15～30分程度の短時間の設定も可。
○授業づくり	授業づくりに関する模擬授業や指導案検討、教材作成等の協議。
○授業の相互参観	初任者への授業提示、あるいは初任者の授業参観。 ※　校内研修の研究授業を初任研に充てて良い。初任者が授業を提示する場合は「参観指導」、他の教員が授業を初任者に提示する場合は「示範指導」としてカウントできる。
○授業研究会	メンターで参観し合った授業についての授業研究会。 ※　校内研修の授業研究会を初任研に充てて良い。 ※　校内研修の授業研究会等については、参加者を固定したメンターチームだけでなく、校内研修の意図に応じメンバーを変えても良い。

初任者からサポーターに対する口頭や簡単な文章等による報告とサポーターからの助言を行い、実践へ導く。

イ）　日常の教育活動と関連させた短時間での研修・指導（以下、「事例研修」という）

現行方式の口頭指導の他に、日常の教育活動と関連させた研修・指導を取り入れる。図３のように、初任者による所感の記述と口頭指導を経て実践化に結び付ける。

なお、この研修・指導については、次の事例について扱うことができる。この事例には、初任者が単独で対応する場合に加え、他の教員等と合同で対応する場合や他の教員等の対応に研修の目的で同席させる場合を含む。

○　生徒指導に関する問題の解決に、授業や放課後の時間を特別に設ける等、数日間かけて継続的に対応した事例

○　進路指導に担任あるいは学年の一員として継続的に対応した事例

○　その他、生徒指導や進路指導に限らず、研修コーディネーターが効果的と認める事例

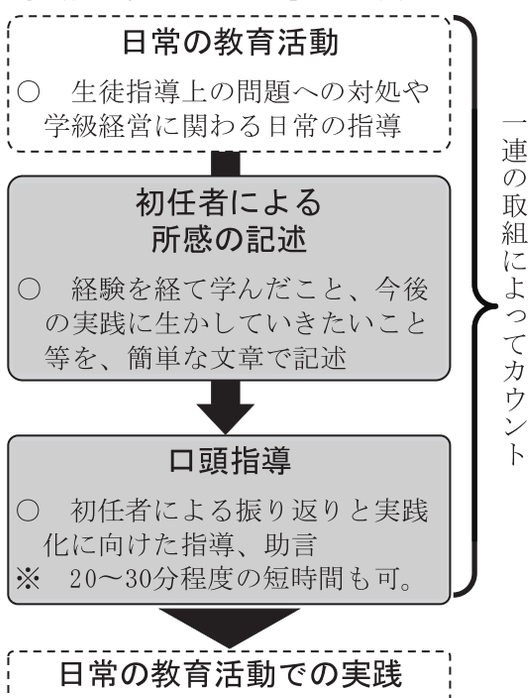

図３　「事例研修」の流れ

ウ）　作成した資料や諸表簿の点検を中心にした指導（以下、「点検指導」という）

調査研究方式では、図４のように初任者が作成した資料や諸表簿を他の教員が点検し、朱書きした資料等を返却したり必要に応じて口頭で指導（短時間も可）をしたりする等、点検を中心にした指導を可能とする。

ただし、１度目の作成については口頭指導や実習指導の時間を確保し、２度目以降の作成時に点検を中心にした指導を行う等、初任者に必要な知識・技能等が習得できるように配慮する。

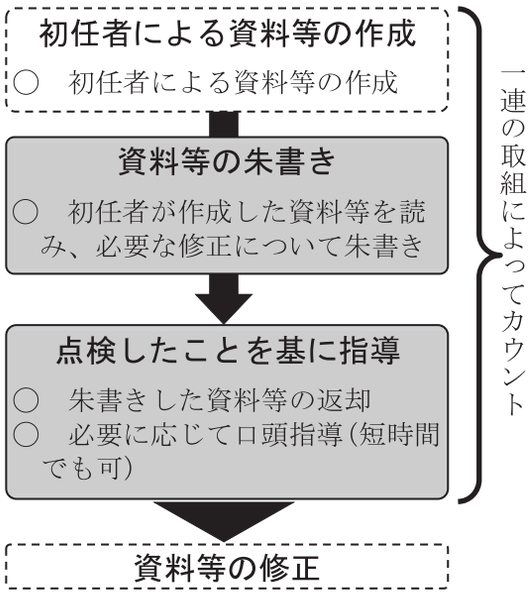

図４　「点検指導」の流れ

なお、この研修・指導については、次のものについて扱うことができる。

○　学級経営案
○　通知表や指導要録の所見
○　通知表や指導要録の評価・評定
○　会計簿等
○　研究授業等の学習指導案
○　その他、研修コーディネーターが効果的と認める資料や諸表簿等

研修コーディテーターと校内指導教員の役割分担について

ア）　初任研の運営、調査研究に係る業務の分担（資料４）

資料４　主な担当者と業務内容

主な担当者	分類	業務内容
校内指導教員 ※研修コーディネーターと連携して作成	主に初任研の計画立案･実施報告等	○　年間研修指導計画や週時程の作成
		○　他の教職員の示範授業や口頭指導等の分担
		○　年間研修指導報告書の作成
研修コーディネーター ※校内指導教員と連携して作成	主に調査研究に係る企画・運営・報告等	○　メンター研修のコーディネート（企画・運営補助）
		○　調査研究報告書、その他の調査研究に係る提出書類等
		○　研修事例の収集及び研修・指導に使用した資料等の収集

イ）　研修・指導への研修コーディネーターと指導教員等の関わり方（資料５）

資料５　研修形態と担当者の関わり方

研修形態	主な担当者と関わり方
研修形態Ａ （参観指導） ※　週時程には２コマ位置付ける。	○　校内指導教員が中心に行う。 ※　研修コーディネーターがT2を行い校内指導教員が参観指導をする等、形態を工夫して良い。ただし、この場合の研修・指導時数は「１」とし、ダブルカウントできない。
研修形態Ｂ （示範指導） ※　週時程には１コマ位置付ける。	○　校内指導教員（中学校においては副指導教員の場合もある）が中心に、他の教員の協力を得ながら行う。 ※　調査研究を進める上で望ましい場合には、研修コーディネーターが担当できる。 ※　授業者として関わることで指導を担当する教員の指導意図や指導技術を実感できる等、相応の効果が期待できる場合は、初任者をT2として示範指導を行って良い。ただし、指導のポイントをつかませた上で臨ませる等、指導効果が得られるように配慮する。 ※　中学校においては、初任者が専門教科に係る授業力を習得できるよう、専門教科の示範授業を参観する機会を適切に設定する。必要に応じて教科指導専門員を措置する。
研修形態Ｃ（基礎的素養等） ※　週時程には３コマ位置付ける。	○　校内指導教員、副指導教員（中学校）を適切に位置付ける。 ※　週時程に位置付けられた教員だけでなく、研修内容に応じて他の教職員に指導を依頼する。
研修形態Ｄ （研修・指導の準備や報告に関する業務等）	○　校内指導教員は、週時程に４コマ位置付ける。 ○　校内指導教員とは別に、研修コーディネーターが研修・指導の準備や報告に関する業務等に携わる時間として１校当たり４コマ以上設定する。 ※　研修コーディネーターのコマ数は、調査研究に掛かる負担を考慮し、変更して良い。

※　研修形態Ａ～Ｃについて､研修コーディネーターは校内指導教員等の指導に立ち会ったり、研修・指導の課題、初任者の抱える課題意識や困り感等を聞き取ったりすることで、メンター研修のテーマ設定に生かし、校内指導教員と連携して指導力向上に結び付ける。

※　メンター研修や校内研修等により研修・指導を実施した場合は、週時程に位置付けている研修形態Ａ～Ｃを減らす等して、初任者や研修に携わる教職員の負担過剰にならないようにする。

(5)　調査研究日程

調査研究の日程は資料６のとおりである。

資料６　調査研究日程

月	調査研究校	関係機関（教委・教育事務所・センター等）
４月５日（火） 12,19,26日	調査研究方式研修会（実施内容の説明）	
	小・中初任研調査研究実施に係る事前研修会 ※研修コーディネーターに対する研修会	
	◎「年間研修指導計画書」等の作成 ◎計画に基づく研修の実施 ◎「基本調査」への回答・提出	◎指定校訪問（研究の推進に係る指導・援助）
５月16日（月）	契約締結（文部科学省）	
27日（金）	第１回研究協議会及び研修会（事業の概要と本件の取組の説明、講義等）	
	○「年間研修指導計画書」等の提出 ◎調査研究による研修計画作成・提出	
６月17日（金）	先進校視察（横浜市教育委員会、横浜市立小雀小学校）	
７月１日（金）	第２回研究協議会及び研修会（研修方法の共有及び検討会）	
７日（木）		連携先研修会視察（高崎市）
８月１日（月）		調査研究のフォーラム参加（文部科学省）
９月７日（水）		連携先研修会視察（高崎市）
10月18日（火）	研究協議会（各調査研究校の実践を基にした協議）※高崎市と合同実施	
24日（月） 27日（木）		◎調査研究校訪問 ◆桐生市立川内小　◆板倉町立板倉中 ◆桐生市立川内中
11月 11月１日（火） 11日（金） 21日（月）		◎調査研究校アンケートの実施 ◆伊勢崎市立広瀬小 ◎相互視察訪問（研修コーディネーターが相互に学校訪問） ★藤岡市立藤岡第二小 ◆伊勢崎市立坂東小 ★板倉町立東小 ◆板倉町立板倉中
12月５日（月） 19日（月）		★桐生市立川内小 ◆板倉町立東小
H29.１月	○「年間研修指導報告書（８～12月分）」提出	
２月 ２月６日（月） ７日（火）		◎調査研究の成果等分析と総括 ★伊勢崎市立広瀬小 ◆藤岡市立美土里小
21日（火）	研究協議会（各調査研究校の取組についての発表及び意見交換、講義等）	
27日（月）		◆伊勢崎市立坂東小
３月	○「年間研修指導報告書（１～３月分）」提出	◎調査研究報告書の作成・提出 ◎「委託事業完了報告書」提出（文部科学省）

※　「◎」は調査研究に関わる内容を「○」は初任研全体に関わる内容を表す。

※　「★」は相互視察研修を、「◆」は調査研究校訪問を表す。

Ⅱ　実践内容及び成果と課題

「Ⅱ　実践内容及び成果と課題」では、「メンター研修」「事例研修」「点検指導」の三つの研修・指導の内容や方法を整理し、成果と課題を明らかにした。概略は次のとおりである。

三つの研修・指導の内容や方法

○　メンター研修は協議を取り入れたり、様々な手法を用いたりして実践的な研修となった。初任者の困り感や課題に応じた研修テーマを研修方法と合わせて整理し一覧化した。

○　メンターチームの編制とサポート体制づくりは、校内における人材育成の考え方を土台として行う必要がある。ここでは、２種類の編制モデルを示した。

○　メンター研修の時間設定は準備段階の課題であり、業務のスリム化と合わせて進める必要がある。ここでは、時間設定の方法を３種類例示した。

○　事例研修では、生徒指導に関する事例を中心に、初任者の困り感が高まる年度当初、２学期前半を中心に具体的な指導がなされた。

○　点検指導はある程度の実践がなされたものの定着しているとは言えず、実施上の課題を引き続き調査するとともに、研修方法について周知していく必要がある。

○　事例研修と点検指導の指導体制については、初任者を直接指導する立場の教員、研修をコーディネートする立場の教員の役割分担と連携の在り方を明確にする必要がある。ここでは、事例研修及び点検指導のサポート体制のモデルを示した。

成果と課題

○　初任者の困り感や課題を踏まえた研修内容、柔軟な研修方法の選択により、初任段階にある教員にとって、実践的な研修となった。

○　全校体制による研修の実施により、キャリアステージに応じた職能成長が図られるとともに、校内指導教員の負担軽減に結び付くことが明らかになった。

○　研修の充実に向け、校長のリーダーシップによる組織的な取組の大切さを再確認した。

○　今後は、調査研究方式をより汎用性のある研修・指導にするため、研修体制のモデルに基づいて実践し、次の点について引き続き研究を進めていきたい。

・メンターチームのメンバーは無自覚であるが、解決する必要がある課題の自覚を促す方法の整理。

・作成した研修体制の有用性の検証。

・従来の研修・指導で行うべき内容と、新たな研修・指導に代えて行うことができる内容の整理。

1　調査研究の方法

概　略

調査研究校における実践の効果や課題を定量的に測ることは難しい。そのため、次の方法を組み合わせて分析することで、成果や課題等を明らかにすることとした。

○　調査研究校における新たな研修・指導の事例の記録・分析。
○　調査研究校へのアンケート調査の実施と分析。
○　調査研究校における研修の視察及び聞き取り調査の実施と分析。

調査研究方式で新たに取り入れた研修・指導は、初任者や他の教員の意識や態度、学校全体の協力的な雰囲気、初任者及び校内指導教員等の負担感や孤立感、初任者の資質・能力に働き掛けるものである。そのため、調査研究方式の効果や課題を、ある程度定量的に測ることで傾向を捉えることが適当な内容と、聞き取りや記述等によって捉えることが適当な内容とに分け、それらを総合して分析することが適当だと考えた。

このような考えから、以下の方法により調査研究校の実践について分析し、成果と課題等を明らかにしようと考えた。

(1)　研修・指導の事例の記録・分析

調査研究方式として新たに導入した三つの研修・指導を調査研究校で試行実施し、事例を資料７のワークシートに記録し、初任者が学んだことを内省化し日常の実践に生かしていこうとする意欲を持てるようにした。そして、この事例の記録の記述内容を基に分析を行った。

資料７　事例記録用ワークシート（左：メンター研修、右：事例研修、次頁：点検指導）

記入者の立場	分掌等（　　）
実施日	平成　年　月　日（　）　時間の設定（　　）
メンターチーム	（　）参加者を固定したメンターチーム （　）その他　編制の仕方（　　）
内容	（　）メンバーの悩みや課題を基にテーマを設定する研修 テーマ【　　】 （　）実践や経験に関するテーマの研修 テーマ【　　】 （　）授業づくり （　）授業の相互参観 （　）授業研究会 （　）その他（　　）

研修の記録

研修の概要と研修時の様子	扱った事例の概要	時間
初任者の所感等	初任者の所感 （内省化の促し）	
口頭指導等の概要	指導を担当した者の立場（　　） 研修後の指導の概要	時間
初任者やメンバーの変化等	研修後の変容	

記入者の立場	分掌等（　　）
実施日	平成　年　月　日（　）～　月　日（　）
内容	（　）生徒指導について授業時間や放課後等の時間を特別に設けた事例 （　）生徒指導について数日間かけて継続的に対応した事例 （　）進路指導に担任あるいは学年の一員として継続的に対応した事例 （　）研修コーディネーターが効果的と認める事例 事例の内容【　　】
中心となって指導・対応をした教職員	（　）初任者 （　）他の教員が対応し、初任者が立ち会った （　）初任者を含むチームで対応した （　）その他【　　】

研修の記録

扱った事例の概要	扱った事例の概要	
初任者の所感等	初任者の所感 （内省化の促し）	
口頭指導等の場面と概要	指導を担当した者の立場【　　】 指導をした時間や場面　【　　】 研修後の指導の概要	時間

記入者の立場	分掌等（　　）
実施日	平成　　年　　月　　日（　）～　　月　　日（　）
内容	（　）学級経営案 （　）通知表の所見 （　）指導要録の所見 （　）通知表や指導要録の評価・評定 （　）学級会計簿 （　）研修コーディネーターが効果的と認める資料や諸帳簿等 扱った資料や諸帳簿等【　　】
指導した教職員	（　）校内指導教員 （　）研修コーディネーター （　）その他【　　】

研修の記録

口頭指導等の概要	指導の概要	時間

※「小・中学校初任者研修に係る調査研究事業の実施に向けて（4/5 配付）」の４頁を参照

(2)　調査研究校の教員を対象としたアンケート（以下、「調査研究校アンケート」という。）

調査研究校の本務教員を対象に、以下のとおり実施した。

①　実施時期　　平成28年11月上旬

②　対象及び方法等

○　管理職を対象とした記述式のアンケート

○　研修コーディネーターを対象とした記述式のアンケート

○　初任者を対象とした選択式のアンケート

○　先輩教員を対象とした選択式アンケート

(3)　調査研究校への訪問時の聞き取り調査及びメンター研修の参観

メンター研修等の機会を捉えて各校を訪問し、管理職及び研修コーディネーター、初任者、メンター研修参加者を対象に調査を実施した。

①　実施時期　　平成28年10月～平成29年２月

②　対象及び方法等

○　管理職及び研修コーディネーターを対象とした聴き取り調査

○　メンター研修終了後に初任者を含む研修参加者を対象とした聴き取り調査